

第6学年B組 体育科学習誘導案

教諭 神谷 翔貴

単元 わたしのマット運動

(本校教育課程 体育科単元 第5項 6月上旬～6月下旬 8時間)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、体育館に置かれていたマットを見付けると、「先生、次の朝の運動タイムでマット運動をしてもよいですか。」と尋ねてきた。してよいことを伝えると、マットを並べ、「こんな技があったよね。」と前転や後転、側方倒立回転などの技を行い始めた。なぜその技をしているのか尋ねると、「自分の得意な技だからやってみようと思いました。」と発言していた。今までに経験した技をマットの上で行うことに興味をもっていることが分かる。そこで、中体連体操競技「ゆか」の映像をモニターに映した。すると、「迫力があってかっこいいね。」「一つの技だけではなくて、たくさんの技をつなげているね。」「技の難しさと得点が決まっているんだね。」などと発言していた。更に様子を観察すると、マットを数枚つなげ、いくつかの技を続けて行う姿が見られた。このように、子どもはマットの上で自分ができる技を組み合わせることに興味を高められている。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、前転や後転、開脚後転などの基本的な技や開脚前転や補助倒立前転などの発展技を学習してきている。しかしながら技能の個人差は非常に大きい。数名の子どもは、精形態に近い状態で組み合わせた演技を行うことができる。一方で、前転や後転で回転力を生みだすことができず、尻もちをついた状態で終わる子どもや、側方倒立回転で直線的に回転できず、腰や足が曲がっている子どもが見られる。また、倒立前転で、背中が丸まり、倒立位を経過しないまま、従前の「大きな前転」を行う子どももいる。接転技に関しては、正しい着手の仕方が身に付いていないことや、へそを見て頭を入れる感覚が身に付いていないことが原因であると考えられる。ほん転技に関しては、両手や両肩にしっかりと体重をかけ、腕支持をする感覚が身に付いていないことや、逆位の経験が少なく、恐怖心を抱いてしまっていることが原因であると考えられる。

○ 社会からの要求

スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以後、子どもを取り巻く環境が一変し、子どもの体力レベルの低下傾向が続く状況を示唆している。また、依然として運動をする子どもとしない子どもの二極化傾向が続いていると示している。器械運動は、「できた」、「できない」がはっきりしている領域である。一方で、「できた」時の喜びは他の領域と比較しても大きいものがある。この学習において、子どもが技を身に付ける過程で、自分の体を意のままに操作する感覚を身に付けることや、技ができたときの達成感を味わうことは、自己の有能感を高め、体力の向上にもつながると考える。ひいては、豊かなスポーツライフの実現に資する資質・能力を育成することができ、大変意義深いと考えられる。

○ 教科系統上の要求

本学級の子どもは、第5学年までの学習において、前転や後転、開脚前転や開脚後転、側方倒立回転などの技を学習してきている。第6学年では、これらの技に倒立前転を加え、安定して技ができるようになったり、自己の能力に適した技を組み合わせたりする学習を行う。このことは、中学校第1学年の器械運動において、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせたりする学習へと発展していく。

単元の問題

自分ができる技を組み合わせ、わたしのマット運動の演技をつくろう。

- モデルの動きと自分の動きを比べて、自分の課題を見付けよう。
- 見付けた課題をもとに、自分の演技に必要な動きをつくろう。
- 自分ができる技を選んで、組み合わせた演技をつくろう。
- わたしの組み合わせ演技発表会をしよう。

目 標

<知識及び技能>

○ マット運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりするとともに、選んだ技を組み合わせたりすることができる。

<思考力、判断力、表現力等>

○ 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすることができる。

○ 互いに動きを観察し合って見付けたこつやわかったことを友達に伝えることができる。

<学びに向かう力、人間性等>

○ 基本的な技や発展技に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

誘 導 の 着 眼

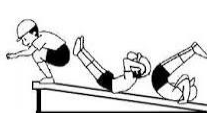
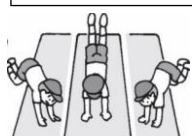
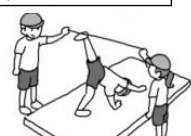
【着眼1】 達成意欲を絶えずもち続ける単元構想

子どもが、できる技を増やしたり、できるようになった技を組み合わせたりすることに対する意欲をもち、単元を通して持続することができるように、以下のような単元を構想する。

段階	ねらい	手立て
出会う	技を1回だけ行う時と、組み合わせて行う時の感じ方や見え方の違いに気付き、「今までの技や新しい技を組み合わせで演技をつくりたい。」という思いをもつことができる。	今までできるようになった技を1回だけ行う場と、組み合わせて行う場を設定する。また、技を組み合わせた教師の模範や映像資料を見る時間を設定する。
つくる 高める	技を組み合わせで行うための自己の能力に適した課題を見付け、「よりよい演技をつくるために課題を解決したい。」という思いをもつことができる。	課題解決のための場と、できばえを確かめたり、組み合わせて行うことができるかを試したりするための場を設定する。また、技の点数化を行い、組み合わせ演技に取り入れる。
生かす まとめる	導入時の動きと発表会の動きを比較し、自己の動きの高まりを実感することができる。	わたしの組み合わせ演技発表会を設定し、導入時の動きと比較したり、単元のふり返りをしたりする場を設定する。

【着眼2】 個に応じた課題解決の支援

子どもが、組み合わせ演技をつくるための課題を解決することができるように、子どもの状況を見取り、以下のような支援を行う。

子どもの状況	支援の具体
自力で課題解決が可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関わりを生むための意図的な同質グルーピング ・ I C Tによる動きの可視化・共有化 ・ 技のポイントを解説する映像の提示 ・ 各場の行い方や動きのポイント、細分化したスモールステップを提示したホワイトボードの設置
友達との関わりによって課題解決が可能	
教師による個別の支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱やセーフティマットなどを使った基礎的感觉を養う場の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">課題解決の場の例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">回転・順接感覚</p>  <p>坂道の間</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">腕支持・逆位感覚</p>  <p>川跳びの間</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゴムひもの間</p> </div> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場や練習方法を修正する声掛け（「今の場で練習する前に○○の場で練習しましょう。」など） ・ 教師による動きのフィードバックを促す声掛け（「今の動きはどんな感じがしましたか。」など）

展開計画（総時間数 8 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
出合う	1 今までに学習した技や新たな技を試し、組み合わせの演技について知り、本単元を設定する。 1	○ 学習の見通しをもつことができるように、今までできるようになった技や新たな技を試す場を設定するとともに、教師の模範や映像資料を見る時間を設定する。	○ マット運動に進んで取り組み、場や用具の安全に気を付けて運動しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	中心問題 自分ができる技を組み合わせ、わたしのマット運動の演技をつくろう。		
つくる・高める	分析問題 1 モデルの動きと自分の動きを比べて、自分の課題を見付けよう。		
	2 映像や教師の模範を基に、モデルの動きと自分の動きを比較し、自己の動きの課題を見付ける。 1	○ 自己の課題を見付けることができるように、グループで動きを撮影し、モデルの動きと自分の動きを比較する時間を設定する。また、技の連続図を基に、技のポイントを全体で共有する時間を設定する。	○ 自己の能力に適した課題を見付けている。 (思考・判断・表現)
	分析問題 2 見付けた課題をもとに、自分の演技に必要な動きをつくろう。		
	3 自己の課題に応じた場で、基本的な技や発展技に必要な動きをつくる。 2	○ 前時に見付けた課題を解決することができるように課題解決のための場や、できばえを確かめるための場を設定する。 ○ 課題に応じた練習の場を選ぶことができるように、課題別にどの場で練習するとよいかを事前に明示する。選択できていない子どもを見取り、修正する声掛けを行う。	○ 動きを観察し合っで見付けたこつやわかったことを友達に伝えている。 (思考・判断・表現) ○ 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりしている。 (知識・技能)
分析問題 3 自分ができる技を選んで、組み合わせた演技をつくろう。			
4 自己に適した技を選択し、組み合わせた演技の動きをつくる。 ＜本時 2 / 3＞ 3	○ 自分ができる技を選択することができるように、今までに学習した技の組み合わせを試す時間を設定するとともに、組み合わせの例を示す。 ○ 自己の能力に応じて選んだ基本的な技やその発展技を組み合わせた演技をつくる際の課題を解決することができるように、課題に応じた場で練習を行ったり、選んだ技での組み合わせを試す場で練習を行ったりする活動を設定する。	○ 課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 (思考・判断・表現) ○ 自己の能力に応じて選んだ基本的な技やその発展技を組み合わせている。 (知識・技能)	
生かす・まとめる	分析問題 4 わたしの組み合わせ演技発表会をしよう。		
	5 わたしの組み合わせ演技発表会を行い、単元をふり返る。 1	○ 自己の動きの高まりを実感することができるように、わたしの組み合わせ演技発表会を設定し、導入時の動きと比較したり、単元のふり返りをしたりする時間を設定する。	○ きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたりしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

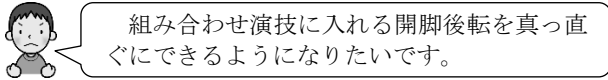
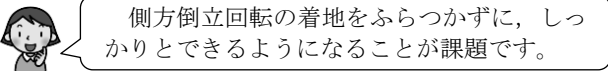
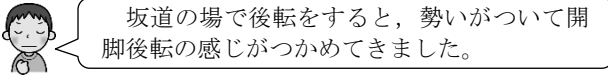
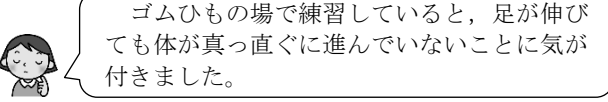
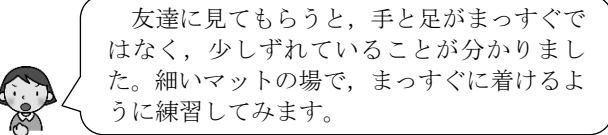
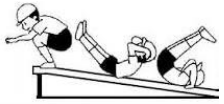
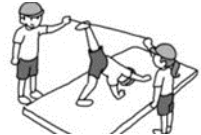
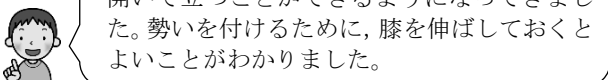
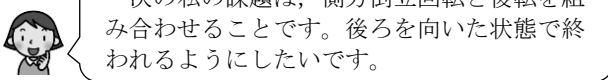
(1) 主眼

課題に応じた場で練習を行ったり，選んだ技での組み合わせを試す場で練習を行ったりする活動を通して，自己の能力に応じて選んだ基本的な技やその発展技を組み合わせることができるようにする。

(2) 準備

マット，セーフティマット，跳び箱，ケンステップ，ゴム紐，技の連続図

(3) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点（○）と評価（※）
<p>1 学習の準備をし，準備運動をする。</p> <p>2 前時の学習を想起し，本時のめあてを確かめる。</p> <p></p> <p></p>	<p>○ 主運動につながる感覚づくりができるように，基礎的な感覚を養う時間を設定する。</p> <p>○ 本時のめあてをつかむことができるように，前時までの動きの映像から，自己の課題をふり返る場を設定する。</p>
<p>自分の課題に合った練習の場で，組み合わせに必要な動きをつくろう。</p>	
<p>3 自己の課題に応じて練習の場を選択し，動きをつくる。</p> <p></p> <p></p> <p>一度，ケンステップを使って手と足の位置を確認したり，細いマットで手や足がまっすぐに着けているか試したりしましょう。友達と動きを見合うとよいですよ。</p> <p></p>	<p>○ 自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるように，それぞれの課題を達成するには，どんな場が適切か確認する時間を設定する。</p> <p>○ 自己の課題を解決することができるように，課題に応じた場を段階的に設定する。また，望ましい場を選択できていない子どもを見取り，練習の場を修正するよう声掛けを行う。</p> <p style="text-align: right;">【着眼2】</p> <div data-bbox="817 1236 1428 1460" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><課題解決の場の例></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>坂道場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゴムひもの場</p> </div> </div> </div> <p>○ 自己の課題を解決することができるように，できるようになった動きをICTで撮影しながら友達と見合い，気付いた点を伝える場を設定する。</p> <p style="text-align: right;">【着眼2】</p> <p>※ 自己の能力に応じて選んだ基本的な技やその発展技を組み合わせている。</p>
<p>4 全体で動きづくりの成果をふり返る。</p> <p></p>	<p>○ 各場での成果や，動きのポイントを共有することができるように，意図的指名をし，試技を全体で確認する時間を設定する。</p>
<p>5 本時のまとめを行い，整理運動をする。</p> <p></p>	<p>○ 次時の学習への見通しをもつことができるように，新たな課題や，次時の活動で練習したい場について話し合う活動を設定する。</p>